

青田と白鷺
身近な風景が
秘めたるもの

「郷土」という意識の共有性

今も昔も変わらない景色

暖かくなったり寒くなったりと、なかなか落ち着かなかった春も過ぎ、いつの間にか草木の緑が眩しく感じる季節になりました。茨城に住んでいると、この時期はどの地域でも田んぼに青々とした稲が並んだ風景が見られるのではないのでしょうか。田んぼに稲が植えられると、餌を求めて自然と白鷺が飛来してきますね。田の緑色のキャンバスに白鷺の真っ白な姿が美しく、私の好きな風景の一つです。

言わずと知れた農業の盛んな茨城にあって、**青田と白鷺の風景は今も昔も変わらず、郷土の日常として毎年繰り返されてきたものか**と思います。親水公園として水戸市民の憩いの場となっている千波湖周辺も、一昔前までは水田に囲まれ、のどかな風景が広がっていたそうです。そこにも、きっとたくさん白鷺が姿を見せたことでしょう。

郷土を何で表現するか

さめきうどんで有名な**香川県**が、「うどん県」と銘打った**広告キャンペーン**を展開しているのはご存知でしょうか。うどん消費量が全国一なのはもちろんのこと、正月に年明けうどんを食べたり、家を新築した際は湯船でうどんを食べる風習があるなど、香川の人々の暮らしに根付いた「うどん文化」があつてこそこのキャンペーンです。香川からうどんを取ったら、香川じゃない!と言ったら大げさかもしれませんが、香川の人々にとって、うどんは故郷の風景と切っても切れないものではないでしょうか。

同じ四国の高知県では、「高知家」という移住キャンペーンがスタートしました。「七十五万人全員が一つの大家族やおもっちゃゆう珍しい県ながよ」と高知県出身の広末涼子が人の温かさをアピール。香川がうどんなら、高知はおせっかい焼きで**義理人情に厚く、酒と土佐弁をこよなく愛する「高知人」こそが高知らしさそのもの**、なのかもしれません。表現は違えど、どちらの県も自分達の郷土に愛情を持っていることが感じられますね。

茨城らしさは

香川や高知のケースを踏まえ

「茨城らしさ」について思いを巡らせると、茨城は単純な地域ではないことに改めて気付きます。海や山、湖など、地域によって地勢が大きく異なり、北部と南部では経済圏や文化圏まで違う。人口も三百万人近い茨城（香川は百万人、高知は七十五万人程）は、**そもそも県民が感じている「郷土」そのものが千差万別**です。その上、東北や北関東、首都圏との交流が盛んで、古来から物の流れも人の流れも活発であったため、地域色の強い文化は醸成されにくかったのだと思います。

茨城は、そもそもが「多様」なのです。シンボリックな一つのもので括れるような、単純な県ではありません。

茨城の多くの人が「あー、そうだよ」と共感・共有できるものを見つけるにはどうすれば良いのでしょうか。私は、青田と白鷺の風景にヒントがあるように感じます。時代が移り変わっても、**今も昔も変わらない茨城の風景を探**ること。廃れずに残ってきたもの、努力して人が残してきたもの、そこには茨城の人々の、**郷土への愛着が隠れているはず**です。それを見出して茨城の人同士が共有できるようにすることも、私たち茨城のデザイナーの仕事です。

(企画制作部 田中宏光)

今年も Art Director | Graphic Designer のグループ展を開催中!

Transmute 4

アートディレクター5人のデザイン展

2013.6.4[tue] - 9[sun]

レセプション | 6.8[sat] 12:00 ~

西成田育男
Nardis and y's 代表笹目亮太郎
Sprout 代表佐藤正和
文化メディアワークス山下寛美
ヒロ・デザイン事務所代表黒澤文子
ヴァングラフィックス代表

Galerie Ciel

ギャラリー しえる

開廊時間 / 11:00-18:00 (最終日16:00) 休廊日 / 月曜
水戸市見川町2434-1 Tel.029-241-5696 www.arrow-co.jp